

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目		環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体	
Q 建築物の環境品質								3.0	
Q1 室内環境					0.40		-	3.2	
1 音環境				3.0	0.15	3.0	1.00	3.0	
1.1 室内騒音レベル		—		3.0	0.40	3.0	1.00		
1.2 遮音		—		3.0	0.40	-	-		
1 開口部遮音性能		—		3.0	1.00	-	-		
2 界壁遮音性能		—		3.0	-	-	-		
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		—		1.0	-	-	-		
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		—		3.0	-	-	-		
1.3 吸音		—		3.0	0.20	-	-		
2 温熱環境				3.1	0.35	-	-	3.1	
2.1 室温制御		—		3.3	0.50	-	-		
1 室温		—		3.0	0.38	-	-		
2 外皮性能		—		3.0	0.25	-	-		
3 ゾーン別制御性		用途別ゾーニングがなされており、さらに、ゾーン別に冷房・暖房の選択が可能、マルチユニット型ヒートポンプ方式(冷暖同時)システムとしている。		4.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御		—		3.0	0.20	-	-		
2.3 空調方式		—		3.0	0.30	-	-		
3 光・視環境				3.5	0.25	-	-	3.5	
3.1 昼光利用		—		3.0	0.30	-	-		
1 昼光率		—		3.0	0.60	-	-		
2 方位別開口		—		-	-	3.0	-		
3 昼光利用設備		—		3.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策		—		3.0	0.30	-	-		
1 昼光制御		—		3.0	1.00	-	-		
3.3 照度		—		3.0	0.15	-	-		
3.4 照明制御		1作業単位で照明制御ができ、かつリモコンで調整ができる。		5.0	0.25	-	-		
4 空気質環境				3.1	0.25	3.0	1.00	3.1	
4.1 発生源対策		—		3.0	0.63	3.0	1.00		
1 化学汚染物質		—		3.0	1.00	3.0	1.00		
4.2 換気		—		3.5	0.38	-	-		
1 換気量		1人当たり30m³/hの居室換気を確保している。		4.0	0.50	-	-		
2 自然換気性能		—		3.0	-	-	-		
3 取り入れ外気への配慮		—		3.0	0.50	-	-		
4.3 運用管理		—		-	-	-	-		
1 CO₂の監視		—		3.0	-	-	-		
2 喫煙の制御		—		-	-	-	-		
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.0	
1 機能性				3.0	0.40	3.0	1.00	3.0	
1.1 機能性・使いやすさ		—		3.0	0.40	-	-		
1 広さ・収納性		—		3.0	-	-	-		
2 高度情報通信設備対応		—		3.0	-	-	-		
3 バリアフリー計画		—		3.0	1.00	-	-		
1.2 心理性・快適性		—		3.0	0.30	3.0	1.00		
1 広さ感・景観		—		4.0	-	-	-		
2 リフレッシュスペース		—		2.0	-	-	-		
3 内装計画		—		3.0	1.00	3.0	1.00		
1.3 維持管理		—		3.0	0.30	-	-		
1 維持管理に配慮した設計		—		3.0	0.50	-	-		
2 維持管理用機能の確保		—		3.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	-	-	3.1	
2.1 耐震・免震・制震・制振		—		3.0	0.50	-	-		
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		—		3.0	0.80	-	-		
2 免震・制震・制振性能		—		3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数		—		3.6	0.30	-	-		
1 躯体材料の耐用年数		—		3.0	0.20	-	-		
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		—		3.0	0.20	-	-		
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		—		3.0	0.10	-	-		
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		屋外露出ダクトにガルバリウム鋼板ダクトの採用。		5.0	0.10	-	-		
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水VLP(B)、給湯VLP(B)、排水(VP)、Eは不使用。		5.0	0.20	-	-		
6 主要設備機器の更新必要間隔		—		3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性		—		3.0	0.20	-	-		
1 空調・換気設備		—		3.0	0.20	-	-		
2 給排水・衛生設備		—		2.0	0.20	-	-		
3 電気設備		—		3.0	0.20	-	-		
4 機械・配管支持方法		耐震クラスをA以上として計画。		4.0	0.20	-	-		
5 通信・情報設備		—		3.0	0.20	-	-		

3	対応性・更新性			3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1 空間のゆとり			-	-	-	-	
		1 階高のゆとり	—	5.0	-	-	-	
		2 空間の形状・自由さ	—	3.0	-	-	-	
	3.2 荷重のゆとり	—	3.0	-	-	-		
	3.3 設備の更新性		3.0	1.00	-	-		
		1 空調配管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
		2 給排水管の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
		3 電気配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
		4 通信配線の更新性	—	3.0	0.10	-	-	
5 設備機器の更新性		—	3.0	0.20	-	-		
6 バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)			—	0.30	-	-	2.7	
1 生物環境の保全と創出	—	2.0	0.30	-	-	2.0		
2 まちなみ・景観への配慮	—	3.0	0.40	-	-	3.0		
3 地域性・アメニティへの配慮	—	3.0	0.30	-	-	3.0		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50	-	-			
3.2 敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-			
LR 建築物の環境負荷低減性			—	-	-	-	2.9	
LR1 エネルギー			—	0.40	-	-	2.9	
1 建物外皮の熱負荷抑制	BPI <sub>m</sub> =0.67	5.0	0.20	-	-	5.0		
2 自然エネルギー利用	—	3.0	0.10	-	-	3.0		
3 設備システムの高効率化	—	2.0	0.50	-	-	2.0		
	集合住宅以外の評価	2.0	1.00	-	-			
	集合住宅の評価	-	-	-	-			
4 効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0		
	集合住宅以外の評価	3.0	1.00	-	-			
	4.1 モニタリング	3.0	0.50	-	-			
	4.2 運用管理体制	3.0	0.50	-	-			
	集合住宅の評価	-	-	-	-			
	4.1 モニタリング	3.0	-	-	-			
	4.2 運用管理体制	3.0	-	-	-			
LR2 資源・マテリアル			—	0.30	-	-	2.7	
1 水資源保護		3.4	0.20	-	-	3.4		
	1.1 節水	自動水栓等に加えて、節水型便器も採用。	4.0	0.40	-	-		
	1.2 雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-		
	1 雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-		
	2 雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-		
2 非再生性資源の使用量削減		2.5	0.60	-	-	2.5		
	2.1 材料使用量の削減	—	3.0	0.10	-	-		
	2.2 既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.20	-	-		
	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.20	-	-		
	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	1.0	0.20	-	-		
	2.5 持続可能な森林から産出された木材	—	2.0	0.10	-	-		
	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	—	3.0	0.20	-	-		
3 汚染物質含有材料の使用回避		2.6	0.20	-	-	2.6		
	3.1 有害物質を含まない材料の使用	—	3.0	0.30	-	-		
	3.2 フロン・ハロンの回避		2.5	0.70	-	-		
	1 消火剤	—	-	-	-	-		
	2 発泡剤(断熱材等)	—	2.0	0.50	-	-		
	3 冷媒	—	3.0	0.50	-	-		
LR3 敷地外環境			—	0.30	-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮	ライフサイクルCO2排出率=83%	3.6	0.33	-	-	3.6		
2 地域環境への配慮		3.0	0.33	-	-	3.0		
	2.1 大気汚染防止	—	3.0	0.25	-	-		
	2.2 温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-		
	2.3 地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-		
	1 雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-		
	2 汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-		
	3 交通負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-		
	4 廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-		
3 周辺環境への配慮		3.1	0.33	-	-	3.1		
	3.1 騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-		
	1 騒音	—	3.0	0.33	-	-		
	2 振動	—	3.0	0.33	-	-		
	3 悪臭	—	3.0	0.33	-	-		
	3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-		
	1 風害の抑制	—	3.0	0.70	-	-		
	2 砂塵の抑制	—	3.0	-	-	-		
	3 日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-		
	3.3 光害の抑制		3.7	0.20	-	-		
	1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	広告物照明を行っていない。	4.0	0.70	-	-		
	2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	—	3.0	0.30	-	-		

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
<b>Q2 サービス性能</b>															
1.2.3 内装計画	2.0	2.0	○	○	-	-	-	○	-	○					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	5.0		○	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	○	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	5.0			○	○	○	○	○	-	-				-	-
2.4.1 空調・換気設備	1.0		○	○	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-	-						
2.4.3 電気設備	2.0	1.0	○	-	-	○	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	2.0		○	-	○	-	-	-							
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>															
1 生物資源の保全と創出	6.0		-	-	3.0	-	-	-	1.0	-	1.0	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	3.0		2.0	1.0	-	-	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		1.0	-	1.0	-	-	-	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	10.0		2.0	1.0	1.0	3.0	3.0	-	-	-	-				
<b>LR1 エネルギー</b>															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	1.0		-	1.0	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	-		-	-	-	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	-														
<b>LR3 敷地外環境</b>															
2.2 温熱環境悪化の改善	10.0		-	-	3.0	3.0	1.0	-	-	1.0	1.0	1.0			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		-	1.0	-	1.0	-	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		1.0	1.0	-	-	-	1.0	-						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

## 主な指標

## Q1 室内環境

## 2.1.3 外皮性能

窓システムSC	0.5	窓の日射熱取得率(η)	-
U値(W/m2K)	窓システム 4.0	屋根 2.0	外壁 2.0
住戸部分	窓システムU値 -	外皮UA値 -	η AC -
星光率	1.5%		η AH -
自然換気有効開口面積率	3.3%		

## 3.1.1 屋光率

## 4.2.2 自然換気性能

## Q2 サービス性能

## 1.1.1 広さ・収納性

## 1.1.2 高度情報通信設備対応

## 1.2.1 広さ感・景観

## 1.2.2 リフレッシュスペース

## 2.2.1 躯体材料の耐用年数

## 2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

## 2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

## 2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

## 3.1.1 階高のゆとり

## 3.1.2 空間の形状・自由さ

## 3.2 荷重のゆとり

執務スペース	.0㎡ /人	病床	.0㎡ /床	シングル	.0㎡ ツイン	.0㎡
コンセント容量	30.0 VA/㎡					
天井高	0 m					
リフレッシュスペース	0.0%	レストスペース	0.0%			
想定耐用年数	25 年					
想定必要間隔	20 年					
想定必要間隔	0 年					
想定必要間隔	0 年					
階高	4.1 m					
壁長さ比率	19.9%					
床荷重	4000 N/m2					

## Q3 室外環境(敷地内)

## 1 生物資源の保全と創出

## 3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	62%	建物緑化指数	0%
空地率	48%	水平投影面積率	10%
地表面対策面積率	30%	舗装面積率	6%

## LR1 エネルギー

## 1 建物外皮の熱負荷抑制

## 2 自然エネルギー利用

BPI/BPI <sub>m</sub>	0.67	断熱等性能等級	等級4 相当
自然エネルギー直接利用量	0 MJ/年㎡	採光を満たす教室数	80.0%
		採光を満たす住戸数	80.0%
		通風を満たす教室数	80.0%
		通風を満たす住戸数	80.0%
		太陽光	.0kW
		太陽熱等	.0kW
		蓄電池	.0kW
BEI/BEI <sub>m</sub>	再エネ有	0.80	無
一次エネ削減率	再エネ有	無	-

## LR2 資源・マテリアル

## 1.2.1 雨水利用システム導入の有無

## 2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

## 2.5 持続可能な森林から産出された木材

## 3.2.1 消火剤

## 3.2.2 発泡剤(断熱材等)

## 3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%		
特定調達品目	-	エコマーク商品	-
使用比率	0.0%		
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)	
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	1430
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	675

## LR3 敷地外環境

## 2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	39%	隣棟間隔指標R <sub>w</sub>	1.17
地表面対策面積率	30.0%	屋根面対策面積率	0.0%
外壁面対策面積率	0.0%		
見付面積S <sub>b</sub>	391㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W <sub>s</sub>	59.92 m
緑地	937㎡	水面	㎡
保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡
再帰性反射対策面	㎡		